

第3章 重要文化的景観「緒方川と緒方盆地の農村景観」の現状

本章では、本重要文化的景観の選定範囲内における「人口動態」「生業としての農業」の変遷を示し、また、地域住民並びに重要な構成要素の所有者管理者にアンケートを実施した結果の分析及びワークショップで出された意見を取りまとめることにより現状を把握する。

把握した現状をさらに分析することにより、事業の展開につなげていく。

なお、「人口動態」で区分する行政区の位置を右の図3-1で示す。

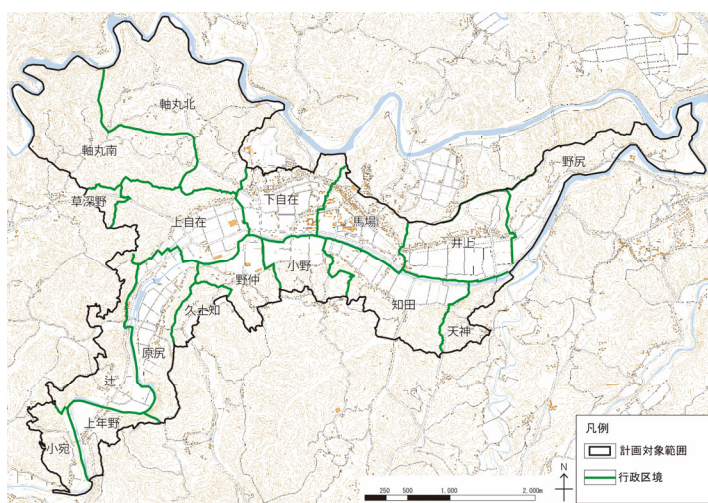


図3-1 計画対象範囲における行政区の位置

第1節 定量的データ（人口、生業）に基づく現状

1 人口動態

(1) 緒方盆地の人口動態

表3-1は今から50年前の昭和49年（1974）から令和6年（2024）までの人口の動きを行政区ごとにまとめたものである。50年でほぼ人口が半減しており、特に2009年からの15年で、そのうちの約4割もの人口が減っていることが分かる。

市街地から離れている上年野区や小宛区、棚田地域でもある軸丸南区などで人口の減少が顕著に見られる。

表3-1 選定範囲の人口動態

行政区名	1974年 (人)	1999年 (人)	2009年 (人)	2019年 (人)	2024年 (人)	2024年-1974年 (人)	2024年-1974年 /1974年 (%)	2024年-2009年 (人)	2024年-2009年 /2009年 (%)
上年野	144	77	65	50	42	△ 102	△ 70.8	△ 23	△ 35.4
小宛	394	286	234	175	127	△ 267	△ 67.8	△ 107	△ 45.7
辻	239	145	126	103	85	△ 154	△ 64.4	△ 41	△ 32.5
軸丸南	138	120	109	77	54	△ 84	△ 60.9	△ 55	△ 50.5
軸丸北	264	160	146	120	90	△ 174	△ 65.9	△ 56	△ 38.4
上自在	244	187	160	130	118	△ 126	△ 51.6	△ 42	△ 26.3
下自在	752	694	732	652	610	△ 142	△ 18.9	△ 122	△ 16.7
馬場	1,125	1,009	908	712	614	△ 511	△ 45.4	△ 294	△ 32.4
井上	314	229	204	157	136	△ 178	△ 56.7	△ 68	△ 33.3
野尻	197	133	118	93	82	△ 115	△ 58.4	△ 36	△ 30.5
原尻	326	198	172	147	135	△ 191	△ 58.6	△ 37	△ 21.5
久土知	261	183	167	126	90	△ 171	△ 65.5	△ 77	△ 46.1
野仲	153	109	130	118	107	△ 46	△ 30.1	△ 23	△ 17.7
小野	260	195	171	138	121	△ 139	△ 53.5	△ 50	△ 29.2
知田	286	167	160	121	112	△ 174	△ 60.8	△ 48	△ 30.0
合計	5,097	3,892	3,602	2,919	2,523	△ 2,574	△ 50.5	△ 1,079	△ 30.0

※草深野区及び天神区については、選定範囲内に該当する区域が一部のため、表3-1には掲載していない。

(2) 緒方盆地の世帯動態

表3-2は今から50年前の昭和49年(1974)から令和6年(2024)までの世帯の動きを行政区ごとにまとめたものである。人口の減少と比べて、世帯数の減少はそこまで顕著なものではない。また、この50年で世帯が増加している下自在区と野仲区では、宅地の造成による新規住宅や集合住宅の増加が原因となっている。

表3-2 選定範囲の世帯動態

行政区名	1974年 (世帯)	1999年 (世帯)	2009年 (世帯)	2019年 (世帯)	2024年 (世帯)	2024年-1974年 (世帯)	2024年-1974年 /1974年 (%)	2024年-2009年 (世帯)	2024年-2009年 /2009年 (%)
上年野	36	29	25	23	20	△16	△44.4	△5	△20.0
小宛	94	85	87	54	73	△21	△22.3	△14	△16.1
辻	50	47	47	46	41	△9	△18.0	△6	△12.8
軸丸南	35	32	33	34	26	△9	△25.7	△7	△21.2
軸丸北	61	49	50	47	39	△22	△36.1	△11	△22.0
上自在	63	64	61	58	54	△9	△14.3	△7	△11.5
下自在	208	246	269	270	259	51	24.5	△10	△3.7
馬場	349	381	369	343	304	△45	△12.9	△65	△17.6
井上	78	72	74	67	62	△16	△20.5	△12	△16.2
野尻	51	47	48	49	42	△9	△17.6	△6	△12.5
原尻	77	72	69	63	58	△19	△24.7	△11	△15.9
久土知	68	63	60	57	49	△19	△27.9	△11	△18.3
野仲	39	36	46	43	40	1	2.6	△6	△13.0
小野	65	62	58	58	54	△11	△16.9	△4	△6.9
知田	74	61	62	56	58	△16	△21.6	△4	△6.5
合計	1,348	1,346	1,358	1,268	1,179	△169	△12.5	△179	△13.2

※草深野区及び天神区については、選定範囲内に該当する区域が一部のため、表3-2には掲載していない。

(3) 緒方盆地の高齢者世帯と高齢化率

市街地にあたる馬場区、下自在区や市街地から緒方川を挟んで対岸に位置する野仲区、小野区以外は軒並み高齢者世帯割合並びに高齢化率が50%を超えている。

表3-3 選定範囲の高齢者世帯数・高齢化率(2024年時点)

行政区名	世帯数 (世帯)	うち高齢者世帯 (①-②+③) (世帯)	高齢者世帯割合 (%)	高齢者一人暮らし (世帯)	男:高齢者一人世帯 (世帯)	女:高齢者一人世帯 (世帯)	高齢者を含む世帯 (世帯)	人口 (人)	男 (人)	女 (人)	高齢者数 (人)	男:高齢者 (人)	女:高齢者 (人)	高齢化率 (%)
上年野	20	14	70.0	8	2	6	6	42	20	22	27	11	16	64.3
小宛	73	53	72.6	30	8	22	23	127	52	75	97	38	59	76.4
辻	41	27	65.9	11	2	9	16	85	38	47	56	26	30	65.9
軸丸南	26	15	57.7	8	1	7	7	54	23	31	31	12	19	57.4
軸丸北	39	22	56.4	13	4	9	9	90	42	48	48	20	28	53.3
上自在	55	29	52.7	17	7	10	12	118	54	64	67	34	33	56.8
下自在	260	113	43.5	67	27	40	46	610	299	311	238	108	130	39.0
馬場	314	153	48.7	94	25	69	59	614	283	331	282	114	168	45.9
井上	63	35	55.6	17	3	14	18	136	56	80	80	31	49	58.8
野尻	42	23	54.8	14	4	10	9	82	34	48	42	15	27	51.2
原尻	58	31	53.4	13	5	8	18	135	65	70	81	37	44	60.0
久土知	50	30	60.0	21	8	13	9	90	42	48	58	27	31	64.4
野仲	40	16	40.0	5	2	3	11	107	59	48	43	22	21	40.2
小野	54	25	46.3	13	2	11	12	121	53	68	62	28	34	51.2
知田	58	32	55.2	23	4	19	9	112	49	63	60	22	38	53.6
合計	1,193	618	51.8	354	104	250	264	2,523	1,169	1,354	1,272	545	727	50.4

※草深野区及び天神区については、選定範囲内に該当する区域が一部のため、表3-3には掲載していない。

(4) 人口動態から見える現状

人口の減少傾向と世帯の減少傾向を考察するに、1人世帯が増えてきたことが推測される。特に高齢者世帯、高齢化率がともに選定範囲全体で50%を超えていることから、生産年齢人口が少なく、高齢者の1人世帯が増えてきたことが分かる。地域で行事を行う際は、そのほとんどが高齢者の力に頼らざるを得ない状況であり、年を追うごとに、今まで以上に厳しい状況になることが予想される。

また、高齢者世帯かつ1人世帯が多いということは、いずれ空き家や空き地、遊休農地（耕作放棄地）の増加も考えられる。

2 生業としての農業

農林業センサスを用いて2000年と2010年及び2020年を比較することで、緒方盆地における農業の状況について概況把握を行った。

農林業センサスにおいて、旧緒方村が選定範囲を概ね含むことから旧緒方村のデータを用いて概況把握を行う。

(1) 総農家数

総農家数は、2000年から2020年の20年間で、約4割も減少している。しかも、2010年からの10年で減少数の約6割を占め、加速した形となっている。

また、2000年には総農家数の83.3%が販売農家であったのが、2020年には67.6%まで落ち込んでおり、農業を生業としない自給的農家の割合が増えている。

表 3-4 総農家数（販売農家数、自給的農家数）

※旧緒方村のデータを使用

		2000年 (戸)	2010年 (戸)	2020年 (戸)	2020年-2000年 (戸)	2020年-2000年/2000年 (%)
実数	販売農家	415	321	198	△ 217	△ 52.3
	自給的農家	83	99	95	12	14.5
	合計	498	420	293	△ 205	△ 41.2
割合	販売農家	83.3	76.4	67.6	△ 15.8	-
	自給的農家	16.7	23.6	32.4	15.8	-
	合計	100.0	100.0	100.0	0.0	-

(注) 農林業センサス資料より

「農家」とは、経営耕地面積が10a以上又は農産物販売金額が15万円以上の世帯をいう。

「販売農家」とは、経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。

「自給的農家」とは、経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家をいう。

(2) 経営耕地面積の状況

緒方盆地内における耕地は田が約9割以上を占め、稲作が中心であることがわかる。ただし、総面積は、2000年から2020年の20年間で、約3割も減少している。しかも、2010年からの10年で減少した面積は、2000年から2010年までの減少面積のほぼ2倍となっている。

表 3-5 経営耕地の状況

※旧緒方村のデータを使用

		2000年 (ha)	2010年 (ha)	2020年 (ha)	2020年-2000年 (ha)	2020年-2000年/2000年 (%)
実数	田	479	429	328	△ 151	△ 31.5
	畑	24	31	14	△ 10	△ 41.7
	樹園地	14	9	2	△ 12	△ 85.7
	合計	517	469	344	△ 173	△ 33.5
割合	田	92.6	91.5	95.3	2.7	-
	畑	4.6	6.6	4.1	△ 0.6	-
	樹園地	2.7	1.9	0.6	△ 2.1	-
	合計	100.0	100.0	100.0	0.0	-

(注) 農林業センサス資料より

経営耕地とは、調査期日現在で農林業経営体が経営している耕地（けい畔を含む田、樹園地及び畑）をいい、自ら所有し耕作している耕地（自作地）と、他から借りて耕作している耕地（借入耕地）の合計である。

(3) 農産物販売金額規模別経営体数

販売金額において、300万以下の経営体が、2010年が90.6%、2020年が86.1%と、多数を占め、農業収入のみでの自立が困難な状況がうかがえる。

表 3-6 農産物販売金額規模別経営体数

※旧緒方村のデータを使用

単位：経営体数

		年	計	100万未満	100~300万	300~500万	500~1,000万	1,000万~
実数	2000年	※データなし						
	2010年	330	236	63	16	8	7	
	2020年	208	137	42	11	7	11	
割合	2010年	100.0%	71.5%	19.1%	4.8%	2.4%	2.1%	
	2020年	100.0%	65.9%	20.2%	5.3%	3.4%	5.3%	

(4) 生業としての農業の現状

総農家数、経営耕地面積がともに減少率が高いうえ、販売金額が300万円以下の経営体が約9割を占めるなど、農業を生業とすることは困難な状況であることがわかる。しかも、農業機械の維持などに掛かるコストと販売金額が見合わない部分も販売農家数の減少の一因ともいえる。

なお、今回の調査項目に加え、専業農家及び兼業農家数、農家の年齢構成等を調査することで、農業の実態をより詳細に把握することが可能となると考える。

第2節 アンケート、ワークショップから見える現状と方策

1 地域住民アンケート ※詳細は資料編を参照

(1) 調査方法

選定範囲内の居住者を対象に、配布枚数 450 票分を 17 の行政区の世帯数で案分して決定した。

調査期間は、令和 6 年 9 月 1 日から令和 6 年 11 月 15 日で、回収数 195 票、回収率 43.3% となった。

(2) 調査結果の分析

- 農村景観の維持に向け、収益性や生産性の向上策の検討、若者が魅力を感じる産業としての農業のあり方の模索等を行い、継続的に後継者を確保する必要がある
- 地元住民が文化的景観の価値を理解する必要がある
- 文化的景観の応援団（サポーター）を確保する必要がある

(後継者の確保)

- ・農業の継続意向では、「継続したいと考えており、後継者もいる」は 1 割強で、8 件に 1 件しか後継者の見通しが立っていない状況である。
- ・逆に、上記以外の 8 割強の後継者の見通しが立っていない農業従事者の主な理由として、「子どもが緒方以外で居住」「農業は生産性が低く、食べていけない」「農機具が高額で購入困難」等が挙げられている。
- ・農村景観の維持に向けては、収益性を上げ生産性の向上策の検討、若者が魅力を感じる産業としての農業のあり方の模索等を行い、継続的に後継者を確保していく必要がある。

(文化的景観の価値の理解促進)

- ・「重要文化的景観」という言葉と内容について知っていた」が 3 割弱である。
- ・人に勧めたい緒方川と緒方盆地の農村景観においても、クンバ、イノコ、オトシゴンヤなど、文化的景観ならではの構成要素に対する回答が少ない。これは、生活の一部として当たり前の景観と認識されていることが要因と考えられる。
- ・一方、農村景観をより良くするための地域住民の役割では、「日々暮らす生活環境の景観に関心を持つ」「文化的景観の成り立ちや価値を理解する」と考える意見が多い。
- ・小、中学生への井路学習、ジオガイドへの文化的景観の講習などの取組はすでに行っているが、当たり前の景観が、実は価値ある唯一無二の景観であるとの理解促進を、地元住民に対して一層行う必要がある。

(文化的景観の応援団確保)

- ・景観をより良くするための取組に対する意見では「文化的景観の特徴的な要素（井路、石橋、石風呂、磨崖仏、緒方三社など）を保存する」が最も多く、次いで「農業（稲作、畑作）を中心とした土地利用を継承する」、「地域を活性化するための交流人口や定住人口の確保」である。
- ・上記の地域住民が主として担うべき文化的景観の価値の理解促進や農業の継承に加え、外部の人も含めて、文化的景観を支えていく取組が必要である。

2 児童生徒へのアンケート ※詳細は資料編を参照

(1) 調査方法

緒方学園の5年生～9年生を対象に、アンケートを実施した。調査期間は、令和6年9月2日から令和6年9月30日で、回収数96名、回収率86.5%となった。

(2) 調査結果の分析

- 児童生徒の重要文化的景観への認知度を高めていく必要がある
- 児童生徒の好きな景観や初めて緒方に来る人におすすめしたい場所（原尻の滝、水田等）の情報発信、PRが必要である
- 児童生徒の重要文化的景観への誇りを高めていく必要がある

- ・当地区が重要文化的景観に選定されたことに関わる認知度は5割強と高くない。
- ・児童生徒は、好きな景観や初めて緒方に来る人におすすめしたい場所として原尻の滝、水田等への意見が多い。
- ・重要文化的景観をみんなに自慢したいとの意見が4割弱と高くない。

3 重要な構成要素アンケート ※詳細は資料編を参照

(1) 調査方法

重要な構成要素の所有者、管理者（国・県及び市は除く）42件を対象に調査した。調査期間は、令和6年9月1日から令和6年11月15日である。

(2) 調査結果の分析

- 重要な構成要素の施設の経年劣化箇所の抽出が必要である
- 重要な構成要素の修理等の際のデザインガイドラインが必要である
- 重要な構成要素の維持管理体制の強化が必要である
- 重要な構成要素の管理負担を軽減する対策が必要である
- 重要な構成要素への関心向上を図る必要がある

(井路関連施設等)

- ・施設の経年劣化による老朽化箇所の調査及び老朽化箇所への補修等が必要。
- ・文化的景観にふさわしい意匠、素材で補修工事を行うためのデザインガイドラインが必要。
- ・井路所有者、管理者の高齢化、後継者・農業従事者減少に伴う日常的な維持管理、井路普請を担う体制の弱体化に歯止めをかける必要がある。
- ・日常的な維持管理負担を軽減する取組（水路蓋がけ、ごみ流入防止対策、水路管理道路整備等）を強化する必要がある。
- ・日頃からの地域住民の井路への関心向上を図る必要がある。

(信仰関連施設等)

- ・神社等の建造物自体の経年劣化箇所（瓦、基礎部分）への修理が必要。
- ・神社の参道等の階段の改修、工事が必要。
- ・大規模な地震など災害時に発生したき損に伴う現状復旧は、地区だけでの対応は困難。

(民俗、屋敷地関連)

- ・辻河原石風呂は、辻河原農村公園と併せて整備や活用を図る。
- ・後藤家オトシゴンヤは、新たな管理者の確保が必要。

4 ワークショップ

～重要文化的景観「緒方川と緒方盆地の農村景観」の活用を考える～

(1) 実施方法

農業従事者、地域活動等に興味のある住民（9名）を対象とし、令和6年10月26日から令和6年12月18日の間で計5回開催した。

(2) 意見のまとめ

- 石、水のコンセプトで付加価値をつける（例 石の上にも9万年）
- 外向けだけではなく、内側（緒方の人）にもコンセプトを浸透
- 内も外も元気になる
- 根（心意気）と幹（暮らし）がどうにかならないと枝葉はどうにもならない
- 自分自身が楽しんでいく必要がある
- ポジティブな話題で心意気を高める

表 3-7 エリア別のアイデア

エリア	主なアイデア
原尻の滝周辺	道の駅の活用、二宮八幡社周辺空き地の活用 チューリップフェスタ等のイベント強化
上年野・牧原・辻	石風呂の活用
緒方市街地周辺	旧緒方村役場の活用（結婚式、パーティー開催、半日ぼーっとする空間、 自分歴史写真館 等）
井上・野尻	旧観光案内所+焼肉屋の活用（観光案内拠点、焼肉屋の復活）
軸丸棚田	ベスト（水田として保全）、ベター（かぼす、あじさい、ひまわり、 すいせん、コスモス 等で四季の彩りを表現）

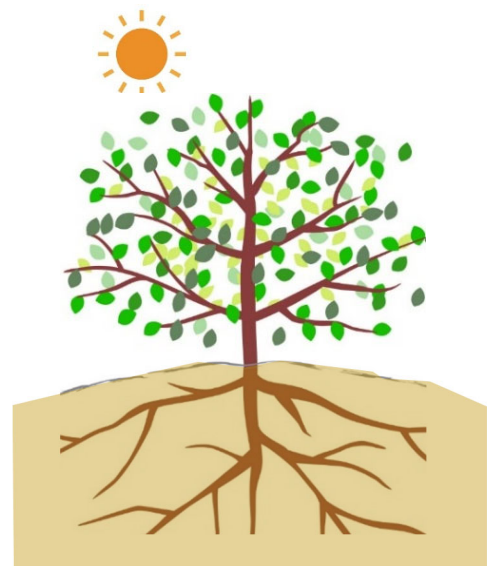
(整備・活用のテーマ、コンセプト)

「石の上にも90000年のまち」→井路、石風呂、石橋、自然の風化、原尻の滝、道の駅の活用

(今後の展開に向けて)

生き活きとした農村景観であり続けるための5つの要素

太陽：	エネルギーチャージ (地域経済：地域の産業、お金、観光)
枝や葉：	道の駅、緒方支所、市関係人口交流拠点施設 cocomio、 キャンプ場、空き店舗、空き家、空き地、休耕田等 (地域資源：整備に活かす)
幹：	伝統文化、人の和、暮らしの知恵 (暮らし：幹が細いと倒れやすい。人の和やつながりが 細くなっていないか？細くなっていると何かや ろうとしても難しくなる)
根：	自ら作ってきた心意気、石の上にも9万年という先 人達の思い (心意気：根が元気じゃないと栄養を土から吸いと れない。心意気は廃れていないか？心意気がないと なんとかしようという気持ちがない)
土：	自然環境（山、川、滝、石等）や重要な構成要素（井 路、石橋等）という環境 (環境：守られているか?)



第3節 生活・生業から派生した地域行事の現状

1 地区ごとに行われていた年中行事

『緒方町誌 区誌編』（2001年）より、地区ごとに行われていた年中行事をまとめたものが表3-8である。現在より20年以上前の情報であるが、2001年の段階ですでに休止となっていた行事もあり、現在においてはさらにその数が増えている。

地区の年中行事は、地区住民の協働作業としてハレの場、楽しみの場であった。しかしながら、少子高齢化の波にあらがえず、こうした場の減少が地区の活力の減退につながっている要因にもなっている。



カンジョ流し（小宛区）



緒方五千石祭に向かう準備（軸丸北区）



集まってコダイの準備（下自在区）



お大師様のお接待（「絹さん人形」市資料館所蔵）

表 3-8 地区ごとに行われていた年中行事

※青色：『緒方町誌 区誌編』発行（2001年）以前に中止となった行事

赤色：令和6年（2024）現在で行われていない行事

区名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
上年野	新年会 兎追い		お大師祭り 区総会	井路掃除	川祭り 地獄入り		作り上げ 中よこい 天満社祭り 薬師様祭り 祖母山祭り	お接待 無縁供養 お地藏様祭り		天満社秋祭り	お日待ち	井路決算会
小宛	相年始 先祖祭り 不動様 稲荷様		お大師様	御田蒔神社春 祭り 道路普請	庚申様 道路普請 井路普請 地獄入り	祖母山祭り さのぼり会	七夕祭り	観音様祭り お大師様 無縁供養 コダイ	かんじょ流し 八朔会 十五夜様 道路普請	野道普請 御田蒔神社秋 祭り 亥の子 弁天講 お日待ち		庚申様 よど 除夜
草深野	初寄り 先祖祭り		庚申様 お大師様 区総会	お大師様			市道草刈り	庚申様 お大師様 コダイ 炭焼観音様 柱松、観音様 お地藏様 薬師様祭り	敬老会	枇杷社秋祭り		報恩講 おと寄り
辻	お日待ち 先祖祭り	河原の野焼き	稲荷様祭り 区総会	天満社春祭り 井路清掃			町道草刈り	初盆参り 無縁供養 コダイ	農道草刈り	天満社秋祭り	お日待ち	区総会 辻河原石風呂 入浴
軸丸南	相年始 先祖祭り 地藏祭り	お日待ち	お接待	区常会 道路普請 井路普請		区常会		祇園祭り お接待 共有林管理	区常会 共有林管理 月盗み 緒方五千石祭			
軸丸北	相年始		大日様祭り	軸丸社春祭り 富士緒井路・道 路普請	区民体育祭		軸丸社夏祭り 富士緒井路・道 路普請	盆踊り 柱松	道路普請 敬老会 緒方五千石祭 しめ縄作り 地神祭			
上自在	元旦祭 先祖祭り お日待ち 百手祭り 地藏様祭り		区社日総会	お大師様 お接待 三宮社春祭り 井路清掃	区有地草刈り			井路清掃 コダイ 風祭り総会	緒方五千石祭 区有地草刈り		川越し祭り	
下自在	お日待ち 無縁仏供養		区総会 地鎮祭	お釈迦様祭り 自在社大祭			自在社大祭	子供柱松大会 盆踊り大会 無縁仏供養 コダイ	緒方五千石祭 地神祭 敬老会 道路井路普請			霜月祭り 門松作り

表 3-8 地区ごとに行われていた年中行事

※青色：『緒方町誌 区誌編』発行（2001年）以前に中止となった行事

赤色：令和6年（2024）現在で行われていない行事

区名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
馬場	初詣、相年始 正月歩き 七日正月 おかがみ開き 阿弥陀祭り お日待ち	梅祭り 地蔵祭り	金比羅祭り お接待				イノコさらえ 仏具洗い	盆踊り 観音様 コダイ	運動会 敬老会 お接待 緒方五千石祭	区スポーツ大会	火祭り	餅つき もの飾り
井上	お日待ち		お接待	春祭りと花見 大師講		田植えよこい		盆供養 コダイ オセガキ	大師講 十五夜 敬老会 火祭り	亥の子	軽スポーツ大会	よど 初詣
野尻	年始 公民館祭り	先祖祭り	先祖祭り					供養盆踊り大会 コダイ	緒方五千石祭			お日待ち
原尻	初詣、相年始 初区会 ドンド焼き 先祖祭り		お大師様				区有林手入れ	柱松 盆踊り 地蔵様 コダイ	緒方五千石祭	ゲートボール大会	川越し祭り	
久土知	初寄り 火祭り 石仏祭り		区総会	甘茶祭り 井路普請	道路普請		道路普請	お地蔵様 お大師様	緒方五千石祭 道路普請	亥の子	川越し祭り	お日待ち 庚申様 稲荷様
野仲	先祖祭り	お日待ち 区有林手入れ	お接待 河原枯草焼き	ゲートボール大会				お接待 柱松 コダイ 盆踊り	敬老会 緒方五千石祭			甘酒祭り
小野	新年会 正月の花餅 庚申様 先祖祭り	お日待ち 稲荷初午祭り お大師講	お接待 区総会	井路普請 (明正井路)	道路普請 井路普請 (三区井路)			お接待 子安観音 柱松 コダイ 宇納間地蔵祭り	緒方五千石祭 報恩講	報恩講		せいもん払い
知田	元旦初参り	お日待ち	お接待 ゲートボール大会	甘茶祭り 貴船社祭り			天神様	お接待 コダイ	緒方五千石祭 敬老祝賀会		貴船社祭り	よど
天神	火祭り	お釈迦様 宮地嶽講	金刀比羅様 地神祭 お接待	朝日社祭り			朝日社祭り	火祭り お接待 お盆行事 無縁供養 十五夜様	地神祭 朝日社祭り 緒方五千石祭		火祭り	火祭り 朝日社祭り お日待ち 庚申様 大黒様

2 緒方三社川越し祭り

緒方三社川越し祭りは、緒方川の水と緒方上井路・緒方下井路に感謝の念を捧げる祭りとして、緒方盆地に居住する人々の井路に対する考えを如実に表した祭礼である。

毎年11月半ば～12月上旬の土・日に祭りが開かれる。緒方三社（一宮八幡宮・二宮八幡社・三宮八幡社）はいずれも1178年に緒方三郎惟栄が創建したといわれている。惟栄が宇佐神宮を焼き討ちした際に、流れ矢が膝に刺さり、これを神罰として宇佐神宮を勧請し宮尾（現在の緒方町久土知字宮尾）の地に元宮を設け、この地より、惟栄が弓に3本の矢をつがえ一度に放ったところ、その矢が久土知、原尻、上自在の地に落ちた。現在の一宮宮、二宮社、三宮社はその地に建てられたという言い伝えがある。

また、原尻の滝周辺で洪水や暴風雨が相次ぎ、不安に思った当時の治世者であった大友能直は原尻の二宮社に惟栄と大野泰基の霊を祀ったという。この二人の霊を鎮めるために行われた祭礼が川越し祭りのはじまりとも伝えられている。三社の祭神は、それぞれ一宮宮は仲哀天皇霊、二宮社は応神天皇霊、三宮社は神功皇后霊が祀られている。祭礼は三宮社の神輿が上井路ぞいの道を進み、宮田（上自在と原尻の境にある田）に向かい、そこから下井路沿いを原尻の滝の取水口に向かい、神輿は下井路取水口の水路に神輿を入れ、練り廻り、その後、滝上の鳥居を通り、御旅所を通り、二宮社参道を登り、二宮社境内に入る。一宮宮の神輿は山から下り、二宮社の境内に入り、二つの神輿は、二宮神殿の前で出会う。その後、両神輿は二宮社の拝殿に入る。祭礼の時間経過を概ね以下に記載する。

（祭礼の時間経過）

- | | |
|--------|---|
| 17:00頃 | ・三宮社では氏子が集合し、準備が行われる。
・階段には滑り止めのために、砂を撒く。 |
| 17:25頃 | ・三宮社で神事開始。 |
| 18:00頃 | ・三宮社では神輿が本殿を出発。
・二宮社ではカワ組が原尻の滝に集合。 |
| 18:25頃 | ・三宮社の神輿が宮田に到着。
・一宮宮では神事。神輿遷座。 |
| 18:30頃 | ・ 宮田での神事が始まる
・オカ組(10人程)は服を脱ぎ、二宮社からの担ぎ手が来るまで待機。 |
| 18:45頃 | ・二宮社からの担ぎ手(2人程)が宮田に到着。 |
| 18:50頃 | ・三宮社の神輿を二宮社の担ぎ手と一緒に持ち、宮田を出発。
・一宮宮ではお神酒が配られ、総代の挨拶などが行われている。 |
| 18:55頃 | ・一宮宮の神輿が二宮社へ向けて出発する。 |
| 19:05頃 | ・三宮社の神輿が原尻の滝上流に到着し、川の中へ。
・ 一度、下井路の取水口に行き、一周。滝の上にある鳥居に向かう。
・一宮宮の神輿は、二宮社に到着。 |
| 19:25頃 | ・三宮社の神輿が二宮社に到着。 |
| 19:30頃 | ・一宮宮の神輿と合流。
・二つの神輿の担ぎ棒の先端を接触させる。(出会いの儀式)
・その後は拝殿に上がり、御霊移しが行われる。 |
| 19:45頃 | ・神樂がはじまり、50分頃には一日目が終了する。 |



宮田での神事



取水口の水路に入る神輿

3 生活・生業の様子を伝える「絹さん人形」

高度成長期を経て、農業の機械化が進み、農作業の形態は大きく変化したが、大正末期から昭和40年代までの農村や農作業の風景は、農家に生まれ農家に嫁いだ後藤絹さんによって紙粘土で再現された。

現在は「絹さん人形」として往時を偲ばせているとともに、四季を通じて行われていた農家の営みを伝える貴重な民俗資料として、大切に保存、保管し、多くの人の目に触れている。



稲収納の風景



屋根葺き替え



千盆搗



道普請(リヤカーで土を運んで、道路の修理)



夫婦で田植え



オトシゴンヤで堆肥を切り返す